

# 社会科見学のしおり

## 東京の水がめ 村山貯水池（多摩湖）



杉並区立桜小学校 4年さくら組

な  
ま  
え

と き 12月1日(日)  
じかん 西武多摩湖線：武蔵大和駅到着ホーム10時集合  
ど こ 武蔵大和駅—都立狭山公園（村山貯水池堰堤の下・宅部池（たちやん池）十二段の滝（余水吐き）—堰堤の階段を上り堰堤の上に—多摩湖展望—第一取水塔（日本一美しい取水塔：ネオルネッサンス様式）第二取水塔・耐震工事完成記念碑など—多摩湖自転車歩行者道（右に丘陵緑地：ときどき貯水池が見える：左側住宅のそれぞれの趣も楽しみながら）—市立狭山緑地（アスレチックや近くに八幡神社）—緑地の中の「貯水池鳥山」（ここまで約2時間）楽しくお食事。（〒207-0032 東大和市蔵敷1-391 Tel.042-561-3078）帰りは多摩モノレール上北台駅まで車で送迎—立川で解散。  
ひょう お食事代3000円くらい+飲み物代+交通費

### 江戸・東京の水道の歴史

■天正18（1590）年、徳川家康は江戸入府に先立ち、家臣大久保藤五郎に、水道の見立てを命じ、藤五郎は小石川に水源を求め、目白台下あたりの流れを利用し、神田方面に通水する「小石川上水」を造り上げたという。江戸の発展につれ、井の頭池、善福寺池、妙正寺等の湧水を水源とする「神田上水」が、寛永6（1629）年頃とされている。江戸の初期は人口15万人と言われ、その後、三代将軍家光のとき、参勤交代の制度が確立すると、大名やその家族、家臣が住むようになり、人口増加に拍車がかかり既存の上水だけでは足りなくなった。承応2（1653）年、玉川兄弟によって羽村取水口から四谷大木戸まで43kmが開鑿された。羽村から多摩川の水を取り入れた玉川上水だ。しかし、武蔵野台地を素掘りで流れる上水は、そのほとんどが関東ローム層の赤土に吸い込まれ

効率が悪かった。

■文明開化の明治時代には、欧米から新技術が次々と導入されたが、その反面しばしばコレラが大流行した。明治19年のコレラの大流行で、三多摩は神奈川県から東京府へ移管される契機にもなった。原因は玉川上水の水質がいかにも良くても、末端の木樋に汚水が流入したからである。浄水場で原水を濾過し、鉄管を使用して加圧給水する近代水道の建設が急務となった。そこで、玉川上水を導水路として、そのまま使用し、代田橋附近から淀橋浄水場までを結ぶ新水路を建設し、明治31（1898）年12月に近代水道は神田、日本橋方面に給水を開始した。

■東京市は、水道拡張の早急な計画の必要に直面し、抜本的な調査設計を内務省の市区改正委員会に依頼し、明治42(1909)年4月、ドイツに留学した中島鋭治工学博士に委嘱した。中島博士は、多摩川の水源をはじめとする山野を踏査し、明治44(1911)年12月、大計画をまとめた。それは、第1計画＝大久野貯水池案（現日の出町）、第2計画＝村山貯水池案の二つ。結果的には、地形が良好で工費が安いということで、第2計画の村山貯水池案が、導水路の羽村村山線、村山境線を含め、採用されることになった。

■大正元年(1912)10月、東京市は水道課に水道拡張準備掛を置いて、いよいよ具体的な計画にとりかかった。村山貯水池の二つの堰堤は、同じ工法で作られてる。近くの丘や高台を切り崩し、その土をつき固め積み上げて堤を作るやり方だ。また、要所にはコンクリートを使うという近代的な技術を駆使して築かれた。土を主として築くので、アースフィル式ダムといわれるもので、当然のことながら堰堤の底は幅が広く、断面は傾斜のゆるい三角形になる。

■多摩湖の建設・・・大正5(1916)年に村山貯水池下堰堤の中央部あたりで、地鎮祭が小雨の中行われた。工事は人力が主であった

ため、昭和2(1927)年の完成まで、10年以上の歳月がかかった。貯水池工事の資材運搬のための軽便鉄道（通称：東京市軽便鉄道）が、東村山駅から上堰堤の下まで敷設され、小型蒸気機関車が2台往復した。東村山駅から清水までは平地だが、そこからは隧道を通り下貯水池取水塔付近に到達できた。この隧道は、高木の宮鍋氏が請け負って掘ったので、宮鍋隧道といわれた。多摩川の羽村取水堰から村山上貯水池までの導水路を羽村村山線と呼び、主に暗渠と3つの隧道（トンネル）で貯水池に達した。羽村村山線に沿って導水路工事のための軌条が敷設され、トロッコが工事材料を運んだ。導水路が完成すると、軌条も撤去された。導水路上は現在、野山北公園自転車道となっている。また、上貯水池から下貯水池への導水路は、同取水塔から深く隧道を掘り、同堰堤南端下の湾入したところへ通じている。通水時には水位の関係で間欠泉のような水柱が噴きあがることもある。

年号	西暦	できごと
明19	1886	東京でコレラ大流行
明31	1898	淀橋浄水場完成（現：新宿副都心）
大5	1916	村山貯水池工事始まる
大12	1923	関東大震災：堤防に小さな亀裂で済む
大13	1924	村山貯水池上池 境浄水場完成
昭2	1927	村山貯水池下池完成
昭3	1928	山口貯水池工事始まる
昭9	1934	山口貯水池完成
昭10	1935	服部金太郎（服部時計店）子孫が桜1万本を寄贈
昭13	1938	小河内ダム工事始まる
昭16	1941	村山貯水池畔に高射砲据え付け
昭20	1945	東京大空襲水道も被害 貯水池施設も銃撃 敗戦
昭21	1946	上水道用地接收 導水路の上に横田基地滑走路
昭31	1956	砂川闘争 基地拡張反対

年号	西暦	できごと
昭32	1957	小内ダム完成（奥多摩湖）
昭35	1960	五日市街道に続き国道16号・八高線の経路変更
〃	〃	東村山浄水場完成 給水開始
昭39	1964	東京オリンピック 多摩川大濁水（東京砂漠）
昭40	1965	武蔵水路完成【利根川大堰（行田市北）→（鴻巣市糖田）】荒川に合流→志木市秋ヶ瀬橋北→朝霞浄水場
〃	〃	淀橋浄水場閉鎖（のちに新宿副都心に）
昭41	1966	朝霞浄水場完成（東村山浄水場と水路で結ぶ）
昭48	1973	村山貯水池第二取水塔完成
平 7	1995	阪神淡路大震災 堤体補強工事の必要性
平10	1998	山口貯水池堤体補強工事開始 H14(2002)完成
平15	2003	村山貯水池堤体補強工事開始
平21	2009	堤体補強工事すべて終了 記念碑を建てる

■湖底に沈んだ村・・・明治45年、村山貯水池建設の計画が東京府東京市によって発表された。水没予定地である狭山丘陵に囲まれた地域は、一般に石川の谷と呼ばれ、山林、畑、水田など324町歩、160戸の家が貯水池に必要となった。・160戸は農業を主体に、機織り、養蚕などを副業として生活を営んでいた。住民の多くは、先祖代々住んでいる人が多く、また強い血縁関係や水田耕作に伴う川や溜池の共同利用など地域的にも相互協力体制が強かった。・しかし生活は水田からとれるわずかな米以外、特産物もこれといってなく、麦を主食とする貧しい生活をしてきた。・住民側には、長い間住み慣れた地を離れることに対する抵抗はあったものの、日露戦争後の不況は、村にも押し寄せてきており、機織り仕事さえ少なくなり、苦しい生活の中でダム移転やむなしの心境に向わせていた。・しかし、大正3年、提示された土地価格が余りにも安かったため、住民地主など、600名の村民が結集して移転地住民大会を開き、反対決議がなされ、76名の代表を立てて東京市に陳情を行った。・その時、

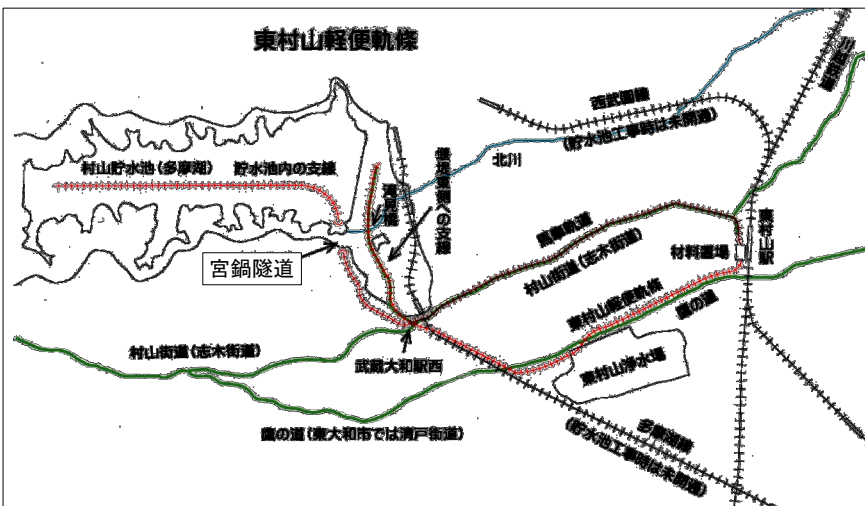
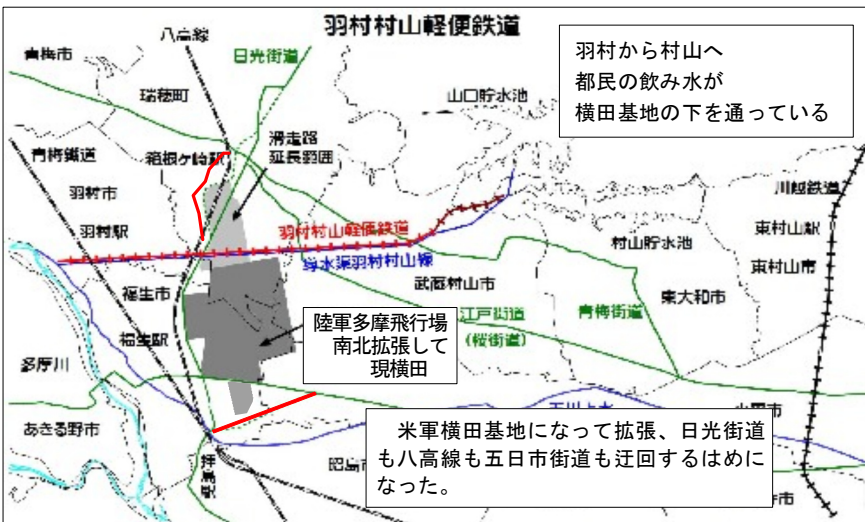
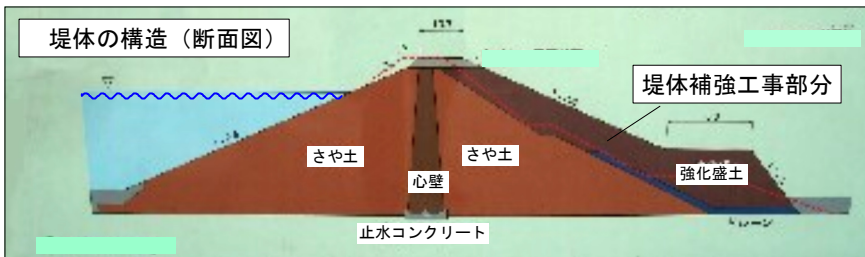
次のように反対決議文が決定され団結を誓いあった。

- 一、 東京市ニ於テ該土地買収ノ協議ニ対シテハ住民極力共同一致ノ行動ヲ採リ各人別ニ応セサル事
- 二、 買収セラルヘキ土地ノ価額移転料地上物件移転中人々ノ手当及社寺堂宇其ノ他共有物等総テ一定ノ標準ヲ以テ起業者ト協議スル事ヲ各部委員ニ囑託スル為メ移転民一同署名捺印スルモノトス右決議スル



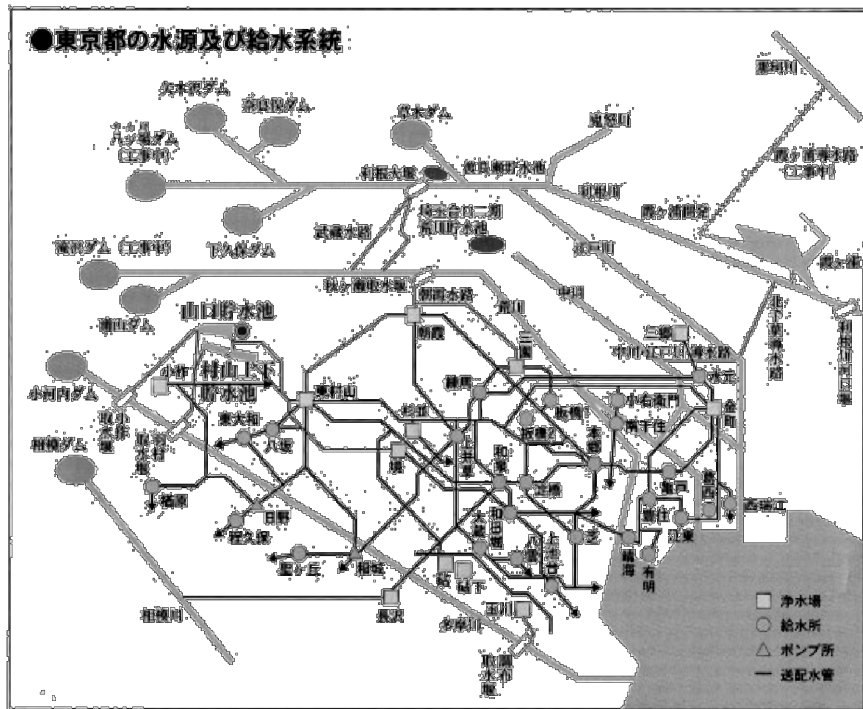
上・村山貯水池の湖底の村  
 左・山口貯水池の湖底の村  
 下・かつての村の風景  
 ・地区の中央を川が流れ、丘陵から湧き出る水をため池としていた。



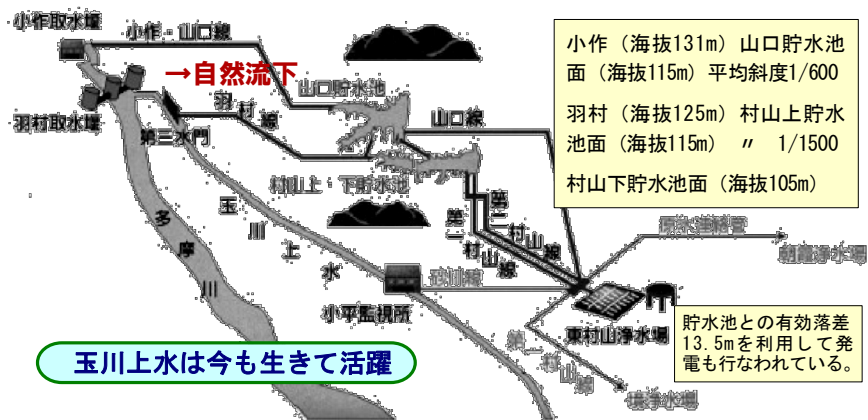


上の5枚・貯水池工事のようす (トンネルII宮鍋隧道)  
下・現在の姿と排水時の取水塔のようす (注・取水口)





東京都の水源及び給水系統



羽村取水場の給水系統

(出典:「村山上貯水池・村山下貯水池及び山口貯水池概要パンフレット」より)

### 参加メンバー (敬称略)

1	菅	リーダー	8	菅
2	小		9	池
3	前		10	杉
4	田		11	八
5	矢		12	原
6	金		13	高
7	新		14	